

同者經費内より下賜相成度且艦隊指揮官ノ義ハ
臨時可被命モノニシテ現員無之候得共其職掌上
外國人ト交際アルハ右司令長官ト相異區之ニ付
同様交際費下賜候様定置度旨ニシテ最例ニ有之
無止義ト存儀同却聽并相成可成歟才ニ局協議尤
按リ具レ仰高裁儀也

御指合按

上請ノ趣聞届候事

十一月廿六日十九日

會計検査院及大藏省一通牒

参照

陸軍省伺各鎮臺司令官等
俸給之儀

前約

交際費一ケ年金六百圓宛當省定額
金之内ヲ以テ支給候様致シ度

以下
略之

明治十五年二月十六日

陸軍卿大山巖

太政大臣三條實美殿

伺之趣聞届候事

明治十五年三月二十日

内二件

明治十五年五月九日

第一局

主任

属

掛参議

書記官

別紙文部省何外國ニ関スル費用紙幣押増額ノ件ヲ按スルニ先般外國ニ関スル費用ノ區域何出ノ節外國人ニ給與スル内地製造品買工代及接待費紙幣ヲ以テ可シキハ石費用ノ外トナセシモ是等固ヨリ該費中ニ加

二百五

甲五

大改